

*米国本社リリース参考訳

*公式リリースは [P & G 米国本社サイト](#) でご覧ください。

P & G 2021/2022 事業年度 第4四半期(4-6月期)業績

通期米国会計基準：純売上高 5%増、希薄化後 1 株当たり純利益 6%増

通期中核業績：本源的売上高 7%増、1 株当たり中核利益 3%増

第4四半期米国会計基準：純売上高 3%増、希薄化後 1 株当たり純利益 7%増

第4四半期中核業績：本源的売上高 7%増、1 株当たり中核利益 7%増

2022 年 7 月 29 日 米国シンシナティ発

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー(NYSE:PG)は、2022 事業年度第 4 四半期と通期の業績を発表しました。

取締役会会長、社長兼最高経営責任者(CEO)のジョン・モラーは、「2022 事業年度も、素晴らしい年でした。P & Gは統合的な戦略の実行力により、厳しいコスト増加と営業上の困難に立ち向かい、力強い売上高の成長、利益の成長、ならびに株主の皆様に対する多額の資金還元を達成しました。2023 事業年度を迎えるにあたり、当社は、再び大きな逆風が吹くものと覚悟しています。当社は、製品の優位性、生産性の向上、建設的な中断、柔軟で責任ある組織の形成という戦略の実行に、引き続き専念していきます。これらは、引き続き、当面の営業上の困難に対して立ち向かい、バランスの取れた成長を達成し、付加価値を生み出すための正しい戦略です」と述べています。

単位：十億ドル、ただし1株当たりの数値を除く

通期							
米国会計基準	2022年度	2021年度	%増減	会計基準外*	2022年度	2021年度	%増減
純売上高	\$80.2	\$76.1	5%	本源的売上高	—	—	7%
希薄化後1株当たり利益	\$5.81	\$5.50	6%	1株当たり中核利益	\$5.81	\$5.66	3%

単位：十億ドル、ただし1株当たりの数値を除く

第4四半期(4-6月期)							
米国会計基準	2022年度	2021年度	%増減	会計基準外*	2022年度	2021年度	%増減
純売上高	\$19.5	\$18.9	3%	本源的売上高	—	—	7%
希薄化後1株当たり利益	\$1.21	\$1.13	7%	1株当たり中核利益	\$1.21	\$1.13	7%

* 定義と、その関連のある米国会計基準上の指標との差異説明は、添付書類 1：米国会計原則で規定されない財務指標をご参照ください。

2022 事業年度通期の業績

当社は、2022 事業年度通期の純売上高が、前年同期比 5%増の 802 億ドルであったと発表しました。為替レートと事業の買収・売却の影響を除いた本源的売上高は、7%増加しました。この成長は、本源的販売数量による 2%増、価格改定による 4%増、ならびに有利なミックスによる 1%増によるものです。

希薄化後1株当たりの純利益は、負債の早期削減による費用を含む前年同期の報告書上の1株当たり利益と比べ6%増加し、5.81ドルでした。希薄化後1株当たり純利益は、前年同期の1株当たり中核利益と比べ、3%増加しました。為替レートの影響を除く1株当たり純利益は、前年同期の1株当たり中核利益と比べ、5%増加しました。

当社の営業キャッシュフローは167億ドルで、調整済フリーキャッシュフロー生産性は93%でした。当社は、2022事業年度通期を通じて、88億ドルの配当金と100億ドルの自社株式の買い戻しにより、合計約190億ドルを株主の皆様へ還元しました。

4-6月期の業績

当社は、2022事業年度第4四半期の純売上高が、前年同期比3%増の195億ドルであったと発表しました。為替レートと事業の買収・売却の影響を除いた本源的売上高は、7%増加しました。この成長は、価格改定による8%増によりもたらされ、中国での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンとロシアでの営業縮小に起因する販売数量の1%減により、一部相殺されました。ミックスは、当四半期の純売上高の成長に影響を及ぼしませんでした。

希薄化後1株当たり純利益は、前年同期に対し7%増加して1.21ドルになりました。営業キャッシュフローは37億ドルで、調整済フリーキャッシュフロー生産性は99%でした。

各事業セグメントの4-6月期について

2022年4-6月期 純売上高増減要因(1)	販売 数量	為替 レート	価格 改定	ミックス	その他(2)	純売上高	本源的 販売量	本源的 売上高
ビューティー事業	-1%	-3%	6%	-4%	1%	-1%	-2%	—%
グルーミング事業	-3%	-6%	6%	-1%	1%	-3%	-2%	3%
ヘルスケア事業	—%	-4%	5%	4%	—%	5%	—%	9%
ファブリック& ホームケア事業	-1%	-5%	10%	—%	—%	4%	-1%	9%
ベビー、フェミニン& ファミリーケア事業	—%	-3%	6%	1%	-1%	3%	—%	7%
P & G 全体	-1%	-4%	8%	—%	—%	3%	-1%	7%

(1) これらの純売上高に係る増減割合は、継続的に適用している計算方法に基づく概算値です。

(2) その他には事業の買収・売却による売上ミックスの影響、販売数量と純売上高との差異分析に欠かせない端数処理が含まれています。

- ビューティー事業セグメントの本源的売上高は、前年同期と同水準でした。ヘアケア部門の本源的売上高は、価格改定による効果が、中国での新型コロナウイルス感染症対策

によるロックダウンとロシアでの営業縮小に起因する販売数量の減少で一部相殺され、一桁台前半の増加となりました。スキン&パーソナルケア部門の本源的売上高は、一桁台前半の減少でした。これは、中国での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンの影響を受け、スーパープレミアムブランドである「SK-II」が減少したことによるミックスの悪化によるもので、価格改定と製品革新による販売数量の増加により、一部相殺されました。

- グルーミング事業セグメントの本源的売上高は、3%成長しました。カミソリ・替刃部門の本源的売上高は、価格改定が、中国での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンで販売数量が減少したことにより一部相殺されて、一桁台半ばの増加となりました。電化製品部門の本源的売上高は、主に、前年同期の感染症の世界的な流行からもたらされた巣ごもり需要の反動による市場の縮小により、有利な製品ミックスで一部相殺されたものの、一桁台後半の減少となりました。
- ヘルスケア事業セグメントの当四半期の本源的売上高は前年同期と比べ9%増加しました。オーラルケア部門の本源的売上高は、価格改定と有利な製品ミックスが、中国での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウン、および、先進市場での市場縮小で一部相殺され、一桁台後半の増加となりました。パーソナルヘルスケア部門の本源的売上高は、10%台半ばの増加となりました。この増加は、呼吸器用製品でのより高い成長からもたらされた有利なミックス、価格改定、ならびに、前年よりも、風邪の流行時期に呼吸器用製品が力強かったことによる販売数量の増加など、幅広くもたらされました。
- 当四半期のファブリック&ホームケア事業セグメントの本源的売上高は、9%増加しました。ファブリックケア部門の本源的売上高は、主に価格改定により、二桁台の増加となりました。製品革新からもたらされた販売数量の増加は、主にロシアでの営業縮小による減少で相殺されました。ホームケア部門の本源的売上高は、主に価格改定と有利な製品ミックスによりもたらされ、前年同期の感染症の世界的な流行に起因する巣ごもり需要の反動による市場の縮小により一部相殺され、一桁台前半の増加となりました。
- ベビー、フェミニン&ファミリーケア事業セグメントの本源的売上高は、前年と比べ7%成長しました。ベビーケア部門の本源的売上高は、価格改定が、ロシアでの営業縮小、および、先進市場での他社との競合活動のための販売数量の減少で相殺され、一桁台半ばの増加となりました。フェミニンケア部門の本源的売上高は、すべての地域で10%台前半の増加となりました。この増加は、主として、価格改定、および、有利な製品ミックスによりもたらされましたが、ロシアでの営業縮小による販売数量の減少により一部相殺されました。ファミリーケア部門の本源的売上高は、価格改定、製品革新に基づく販売数量の増加、ならびに、販売促進活動の増加により、一桁台半ばの増加となりました。

2023 事業年度の見通し

P & Gは、すべてを含めた純売上高が、前事業年度に対し、増減なしから2%増加すると見込んでいます。為替レートは、純売上高の増加に対し、約3%の悪影響を及ぼすものと予想されます。当社は、本源的売上高成長率が3~5%の範囲に収まるものと予想しています。

P & Gについて

P & Gは、高い信頼と優れた品質で、市場をリードする製品ブランドを世界中の人々にお届けしています。それらのブランドには、オールウェイズ®、アンビピュア®、アリエール®、バウンティ®、シャーミン®、クレスト®、ドーン®、ダウニー®、フェアリー®、ファブリーズ®、ゲイン®、ジレット®、ヘッド&ショルダーズ®、レノア®、オレイ®、オーラルB®、パンパス®、パンテーン®、SK-II®、タイド®、ヴィックス®、ウイスパー®などが含まれます。P & Gは約70カ国に現地事業拠点を置き、世界的に事業を展開しています。P & Gとその製品について、最新の詳しい情報は、米国本社ホームページ <https://us.pg.com> (英語)をご参照ください。その他のP & Gのニュースについては、<https://us.pg.com/blogs/> (英語)をご参照ください。